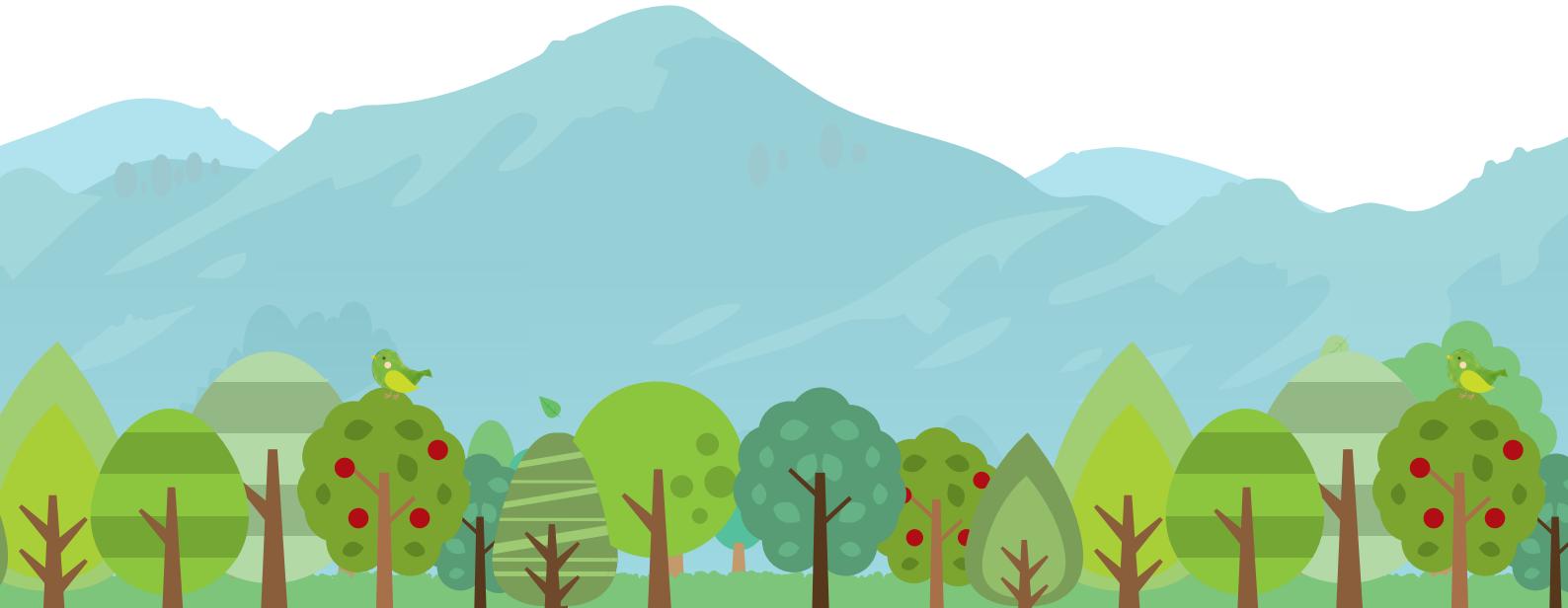


九重町 第5次総合計画

みらい
未来へつなごう!
ゆた い しぜん
豊かなこころと癒やしの自然
～みんなでつなぐ みらい 未来への バトン～



『九重町第5次総合計画』発刊にあたって

九重町では、平成24年度(2012年度)から令和3年度(2021年度)までの九重町第4次総合計画において「住民との協働=簡素で美しい田舎(コミュニティ)づくり～定住1万・交流2万 住み続けたいまちづくりをめざして～」を将来像に掲げ、住民一人ひとりが夢と希望を持って、いきいきと活動し、すべての住民の笑顔が輝く魅力あるまちづくりを進めてまいりました。

現在、私たちを取り巻く社会経済環境の目まぐるしい変化は、まさに予測困難と呼ばれる時代に直面しています。とりわけ、世界規模で拡大した新型コロナウイルス感染症は、住民生活に大きな影響を与え、これまで当たり前であった価値観や生活様式を見直すきっかけとなりました。加えて、生命を脅かす大規模な自然災害、人口減少・高齢化対策など課題も山積となっています。

今回、令和4年度(2022年度)から令和13年度(2031年度)までの新しいまちづくりの指針となる「九重町第5次総合計画」を策定しました。本計画では、九重町第4次総合計画の評価と住民ニーズを踏まえ、「未来へつなごう! 豊かなこころと癒やしの自然 ～みんなでつなぐ 未来への バトン～」をテーマに、5つのまちづくりの基調及び6つのまちづくりの基本目標を掲げ、各施策を推進してまいります。

私たちのまち九重町には、豊かな自然や、その恵みを受けた暮らしがあります。先達が長い時間をかけてつくってきた、人々が支え合い、助け合う暮らしが受け継がれてきました。意欲をもって町をつくってきた人も他に負けないくらいたくさんいました。そんな町のすばらしさをもう一度見直してみたいと思います。人口が減ることは避けられませんが、地域の活動などに関わる人が増えれば、町は豊かになるはずです。豊かな自然もすぐそばに、昔と変わらずあります。

九重町では、今まで様々なことを住民のみなさんと決めてきました。過去には、九重町は合併をせず、「自律に向けたまちづくり」を進めることを決めました。住民のみなさん一人ひとりが自分たちでできることは自分たちで努力し、「小さくともきらりと光る町」をつくることを確認し合いました。また、本当の豊かさがあふれる「日本一の田舎づくり」もめざしました。これらいずれにも、一貫しているのは、主役は、やっぱり、住民のみなさん一人ひとりということです。「この町とともに、年を重ねたい」。そんな気持ちをみなさんと共有しながら、町のすばらしさを未来にバトンして(つないで)いきたいと思います。

本計画は、九重町が誕生して以来、初めて将来人口が減少を迎えるなかで進めていくものとなります。この大きな時代の転換期においても本町がさらに発展を続けていくため、町が抱える諸課題に適切に対応するとともに、社会経済情勢や住民ニーズを的確にとらえ、将来をしっかりと見据えたまちづくりを進めていきます。

最後に、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました議会をはじめ、ご尽力をいただきました九重町第5次総合計画審議会委員、専門部会や住民アンケートなどご協力をいただきました多くの皆様に対して、心から感謝を申し上げます。



令和4年3月
九重町長 日野 康志



目次

第一部 序 論

第1章	計画策定の趣旨03
第2章	計画の構成等04
	1. 計画の構成04
	2. 計画の策定体制05

第二部 基本構想

第1章	九重町の将来像09
	1. 将来像09
	2. 人口の将来フレーム10
	3. まちづくりの基調11
第2章	施策の大綱12
第3章	施策の体系16

第三部 基本計画

【参考】基本計画の施策分野別の構成19
-------------------	---------

【基本目標.1】

こころを繋ぎ、みんなでつくるまちづくり20
1-1. 協働のまちづくりの推進20
1-2. 男女共同参画社会の実現22
1-3. 人権尊重社会24
1-4. 持続可能な行財政経営の推進26

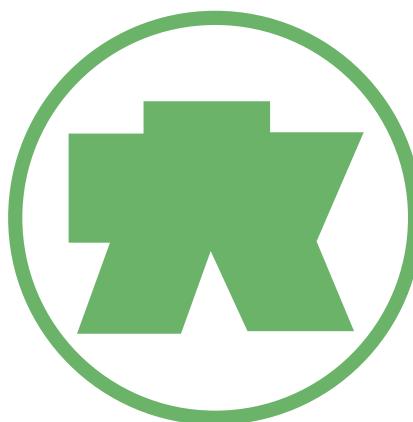
【基本目標.2】

地域の資源を活かし、いきいき働くまちづくり29
2-1. 農林畜産業の振興29
2-2. 商工業の振興32
2-3. 観光の振興34

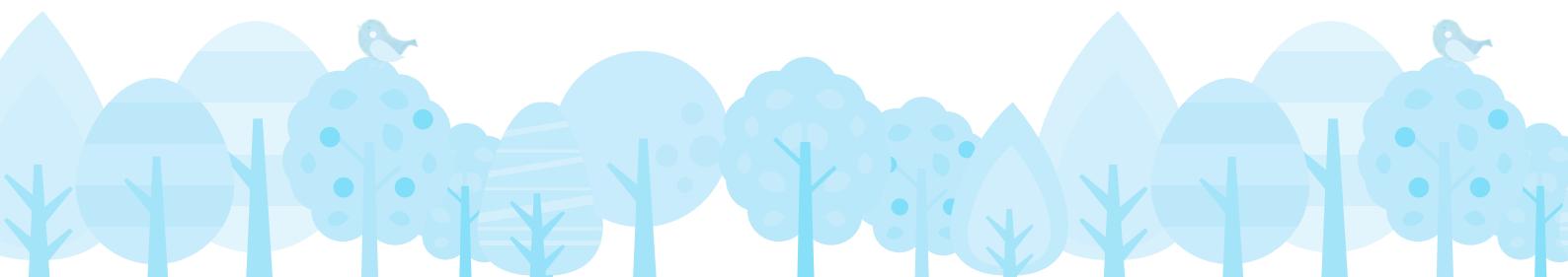
【基本目標.3】		
自然とともに、心地よく暮らせるまちづくり	36
3-1. 循環型社会・再生可能エネルギーの推進36	
3-2. 環境保全の推進38	
3-3. 住環境の整備41	
3-4. 道路・交通網の整備41	
3-5. デジタル社会への対応46	
【基本目標.4】		
安全・安心な暮らしを守るまちづくり	48
4-1. 防災・減災の推進48	
4-2. 安全な暮らしの推進50	
【基本目標.5】		
助け合い、みんなで支えるまちづくり	52
5-1. 健康づくりの推進52	
5-2. 地域福祉の充実55	
5-3. 結婚・出産・子育て支援の充実57	
5-4. 高齢者福祉の充実60	
5-5. 障がい者福祉の充実62	
【基本目標.6】		
地域に学び、ひとを育て、未来が輝くまちづくり	64
6-1. 幼児教育・学校教育の充実64	
6-2. 社会教育の充実67	
6-3. 文化・スポーツの推進70	

資料編

KOKONOE-TOWN



～第1部～
序 論



～第1章 計画策定の趣旨～

本町では、九重町まちづくり基本条例に基づいた魅力的なまちづくりに向けて、住民と行政が協働し、一体となって取り組むための指針となる「九重町第4次総合計画（以降、第4次総合計画という）」を平成23年度（2011年度）に策定しました。

第4次総合計画では、将来像として「住民との協働＝簡素で美しい田舎（コミュニティ）づくり」を設定するとともに、サブテーマとして「定住1万・交流2万 住み続けたい町づくりをめざして」を掲げ、これまでその実現に向けた施策や取組を進めてきました。

この間、我が国全体で少子化・高齢化に伴う人口減少が進行する中で、若者を中心とした人口の東京圏への一極集中の加速といった人口問題が、地方自治体における喫緊の課題として顕在化しました。

また、大規模地震や局地的な豪雨による土砂災害等の自然災害の頻発化、グローバル化を背景とした新たな感染症の拡大等、地方行政を取り巻く環境は刻々と変化しています。

一方で、高度情報ネットワーク化等による市場を含めた多様なつながりの拡大と拡散、持続可能な開発目標（SDGs）をはじめとした世界規模での取組の推進等、新たなまちづくりの契機となり得る、社会状況の変化もみられます。

このような状況の中で、人口減少の克服と地方創生を目的とした「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や、災害が発生しても最悪の事態に陥らないための「国土強靭化地域計画」をはじめ、国の制度等に基づく個別計画が充実しています。

本町においても、「未来に向けて種を蒔く「ひとつづくり」から始まる「まちづくり」」をメインテーマに人口減少対策に取り組むための「九重町まち・ひと・しごと創生総合戦略」や自然災害等に対してより強靭な地域をつくるための「九重町国土強靭化地域計画」、さらに0～15歳まで切れ目のない教育を地域とともに進めることを示す「このえ学園基本計画^{※1}」等に基づき、独自の取組を推進しています。

本町における総合計画は、こうした様々なまちづくりの計画における最上位の計画であり、社会の変化やこれに伴い生じる様々な課題に対応し、中長期的な本町の未来を見据えつつ持続可能なまちづくりを進めるための指針となるものです。

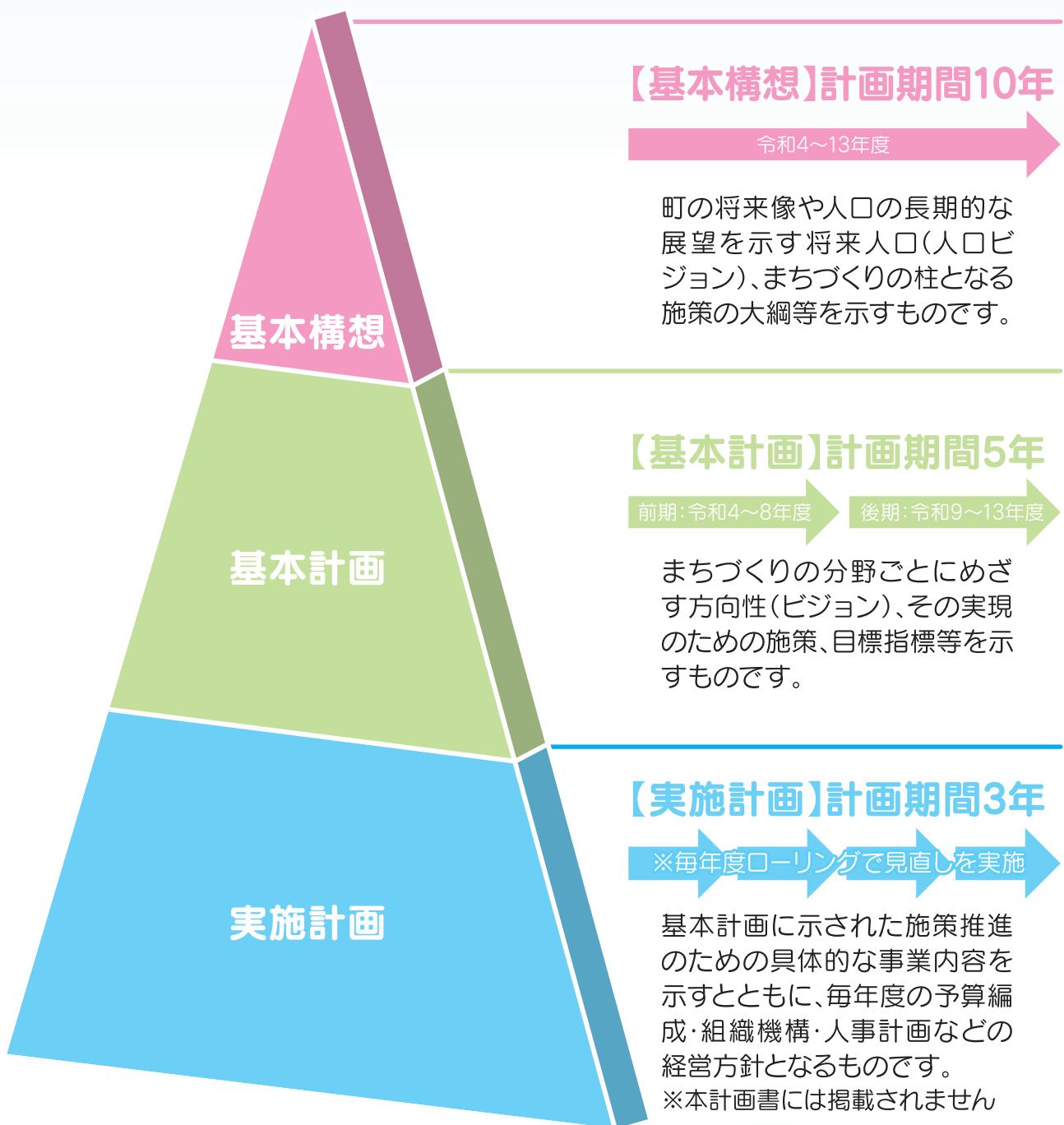
第4次総合計画の計画期間が令和3年度（2021年度）に満了となる中で、社会や制度の変化、また国や県の施策を踏まえるとともに、住民の皆様のご意見も広く伺いながら、今後10年間のまちづくりの指針となる「九重町第5次総合計画（以降、本計画という）」を策定することとします。

^{※1} このえ学園基本計画とは、九重町の抱える教育課題を解決するために、こども園・小学校・中学校・公民館を中心に保護者・地域住民・各種団体が協働・連携して取り組むコミュニティの創造をめざすための計画。平成27年に策定し平成29年から様々な取組を行っている。主な取組として、町内6小学校の5年生や6年生が集まって学習する「集合学習」や九重町について学習する「このえ学」、こども園の年長児と小学生が交流する「つながり学習」等の取組を計画的に実施している。

～第2章 計画の構成等～

1 計画の構成

本計画は、基本構想・基本計画・実施計画で構成し、策定後、毎年度評価・検証を行うこととします。



2 計画の策定体制

本計画の策定にあたっては、庁内の複数の組織で検討を重ねるとともに、住民代表や有識者等で構成する総合計画審議会及び専門部会を立ち上げ、計画の内容等に対してご意見・ご審議をいただきました。

また、幅広い住民参画の機会として、アンケート調査、ケーブルテレビを活用した住民説明、パブリックコメント等を実施するとともに、町議会への報告等を行い、住民の皆様のご意見を可能な限り計画へ取り入れるように、努めました。

～計画の策定体制イメージ～

